

**令和2年度**

**南アルプス市障害者自立支援協議会報告書**

**令和3年6月**

**南アルプス市障害者自立支援協議会**

## はじめに

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症への対応抜きには考えられない1年でした。協議会の活動も、実質夏頃からの始動となり、各部会の動きにおいても会の規模の縮小や予定されていた企画の取りやめ、代替えの企画に移行するなど、今までとは違った形での協議会の運営が求められました。そのような状況下の中、権利擁護部会での支援者向けアンケートの実施。地域移行部会では、精神科病院からの退院支援についての具体的な取り組みや評価シートの作成の他、入所施設の地域移行支援の具体的な取り組みも開始されました。また、今年度は新たに2つの部会の立ち上げがあり、障害福祉計画部会では、次年度からの障害福祉サービスの見込み量の設定の検討。子ども部会では、障がい児を取り巻く状況の実態把握や必要な視点の学びを共有できる機会を作りました。

来年度以降の協議会については、「新しい生活様式」を踏まえ、官民協働の中で、地域の福祉課題に対し、より実効性のある形でアプローチできる仕組み作りを図っていきたいと考えています。この報告書を通じ、当事者・ご家族、関係機関の他多くの市民の皆様にご協働の地域作りの一助になっていただければと考えます。

南アルプス市障害者自立支援協議会副会長 田中 正志

## 目次

はじめに	2
協議会体制図	3
協議会ダイジェスト	
定例会	4
専門部会 権利擁護部会	5
専門部会 地域移行部会	6
専門部会 子ども部会	7
専門部会 障害福祉計画部会	8
連絡会 計画相談事業所連絡会	9
障害福祉サービス事業所合同説明会「みっけ！」	10
地域生活支援拠点	12
令和2年度南アルプス市障害者自立支援協議会 委員名簿	13

# 令和2年度南アルプス市障害者自立支援協議会体制図

## 南アルプス市障害者自立支援協議会

①ある当事者のより良い暮らしを目指して本人・支援者が話し合う「個別支援会議」は協議会の最小単位

個別  
支援会議

個別  
支援会議

個別  
支援会議

個別  
支援会議

②同種の事業所が情報や課題の共有・発信を行なう「連絡会」が地域のネットワークの土台を担う

連絡会

連絡会

連絡会

連絡会

③個別支援へのフィードバックと同時に、地域課題発見・資源開発への気づきを促す「事例検討」の場

「事例検討」の場

④・抽出された地域課題を集約する  
・定例会や各専門部会の「事務局」  
業務を担う

運営会議

◎メンバー：協議会正副会長、基幹、  
障害福祉課

⑤・協議会全体の司令塔となる「定例会」  
・地域課題の解決に向けたアイデア出し  
・部会の動きをモニタする

定例会

◎メンバー：施策推進協議会正副会長、  
部会長、事務局、  
その他必要とする人

⑥・定例会の協議を踏まえ、地域課題の解決への取り組みをプロジェクト化する「専門部会」  
・協議会の具体的成果として地域に発信・還元  
◎メンバー：各部会の目的に沿ったコアとなる人

専門部会（プロジェクト）  
地域移行部会

専門部会（プロジェクト）  
権利擁護部会

専門部会（プロジェクト）  
障害福祉計画部会

専門部会（プロジェクト）  
子ども部会

## 南アルプス市 障害者施策推進協議会

⑦関係機関・団体の代表者が市の障害者施策の総合的な  
推進のための方策を話し合う「施策推進協議会」  
市の施策の進捗を見守るとともに、  
自立支援協議会で集約された地域の声を、  
市への施策提言につなげる場

施策推進協議会

◎ 会長  
◎ 副会長

市の障害者施策

## 令和2年度 南アルプス市障害者自立支援協議会ダイジェスト

-協議会の司令塔、地域の福祉課題の解決に向けたアイデア出し、専門部会の進捗管理-

# 定例会

### ●定例会について

- ・一人の当事者の困り事や支援者の抱える支援の困り感から見えた地域の福祉課題について、課題解決に向けた方策を協議します。
- ・地域の福祉課題についての協議の他、専門部会や連絡会の動きを進捗管理する機能により、自立支援協議会の核となる役割を果たしています。

### ●この1年の動きや出来事

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、制限が課された中での開催となりました。それでも、できうる限りの議論を行い、成果をあげることができました。
- ・地域移行部会、権利擁護部会、こども部会、障害福祉計画部会4つの専門部会の活動について進捗状況を共有し、具体的で実行性のある活動につなげるための協議を進めました。
- ・計画相談連絡会・障害福祉サービス事業所合同説明会の活動状況を報告しました。
- ・地域の福祉課題より新規連絡会の立ち上げとして「就労事業所共有会議」の協議を行いました。

### ●次年度の活動

- ・自立支援協会委員として、当事者2名の参画を継続します。
- ・定例会の活発化を目指し、グループワーク導入などを積極的に検討していきます。
- ・市内の相談支援体制に関して、市内法人向けにアンケート調査を実施、結果を協議します。
- ・地域の福祉課題に関して声を幅広く吸い上げる仕組みを相談支援員と共有し、効果的な課題解決につながられるようにします。

### ●委員

会 長：鴨作（相談支援センターカマラド）

副会長：田中（生活支援センタークローバー）

委 員：玉置（障がい当事者）

塩澤（障害者施策推進協議会会長）

有野（社会福祉法人 蒼溪会）

飯室（中北圏域マネージャー）

齋藤（南アルプス市社会福祉協議会）

笹本（南アルプス市教育委員会・学校）

塚原（南アルプス市包括支援センター）

岩出（障がい当事者・ピアサポーター）

上田（障害者施策推進協議会副会長）

菊原（レーベン）

小林（マハロ）

秋山（また明日）

清水（総合相談課相談支援担当）

河野（総合相談課地域福祉担当）

## 令和2年度 南アルプス市障害者自立支援協議会ダイジェスト

専門部会  
-地域の福祉課題を解決する-

# 権利擁護部会

### ●権利擁護部会について

- ・虐待防止を主眼として、市の体制や福祉現場の支援の質の向上について考えることを趣旨として活動しています。
- ・障害者福祉従事者の実情に即し、実践へ効果的に還元されることを意図とした研修の企画を行いながら、南アルプス市の障害者虐待防止体制の在り方をまとめます。

### ●この1年の動きや出来事

市内の障害福祉サービス事業所への情報発信と啓発活動を行うために研修会を実施する予定でしたが、集団研修を行う難しさがあり虐待防止法や虐待防止センター、権利擁護、支援者支援を考える内容でアンケート調査を行いました。また、あらかじめ回答者には承諾をとりアンケート結果を、虐待防止基礎研修でお世話になっている山梨県立大学の山中達也先生から総評と励ましの言葉をいただき、研修ができない代わりに回答者にお返ししました。アンケートから支援者支援は、各事業所での新人へのフォローは良好と受け取れる回答が多くありましたが、権利擁護や意思決定支援を学ぶ機会が少ないこと、虐待関係についての理解度は低いことが見えてきました。このことから虐待を防ぎ、障害を持つ方の権利を守るためにも繰り返し啓発活動をしていくことが大切と再認識する機会となりました。

### ●次年度の活動

- ・令和4年度から障害者虐待防止の更なる推進のため、従業者向けの研修の義務化、虐待防止委員会や責任者の設置が義務化になり、その中に協議会等が実施する研修会がみなされます。このこともあり、キャラバン研修を普及していくことで事業所内での実施を目指し、虐待防止基礎研修の実施を企画していきます。
- ・成年後見制度利用促進のために、支援者が知る機会を部会と中核機関(福祉総合相談課・介護福祉課・障がい福祉課)が連携をとっていきます。

### ●部会員

部会長：菊原（ワークハウスみどりの家）  
部会員：内藤（育精福祉センター児童寮）  
鴨作（相談支援センターカマラド）  
清水（総合相談課相談支援担当）  
小林（障がい福祉課自立支援担当）  
小田嶋（障害者相談支援センター）  
事務局：齋藤（障がい福祉課自立支援担当）  
遠藤（障害者相談支援センター）



## 令和2年度 南アルプス市障害者自立支援協議会ダイジェスト

### 専門部会

-地域の福祉課題を解決する-

# 地域移行部会

## ●地域移行部会について

- ・精神科病院に長期入院されている方の地域生活への移行と長期入院の予防に取り組んでいます。
- ・地域生活への移行に向けた実際の支援を通して支援のモデルを作ること、南アルプス市として地域移行を推進するための体制を整えること、医療と福祉の連携体制を構築することを目標にしています。

## ●この1年の動きや出来事

- ・年度初めからのコロナ禍により、当初計画した事例検討会、研修の企画を中止せざるを得ませんでした。そのため今期は、部会内でより深い議論をするチャンスと捉え活動してきました。
- ・精神科病院（以下病院）に入院中の7名の退院支援に部会として取り組み、3名が退院となりました。その結果、指定一般事業所と包括支援センターとの連携強化や各病院への地域移行の意識喚起へと繋がりました。
- ・障害者支援施設利用者の地域移行支援を具体的に検討しました。（社手をつなぐ親の会の協力のもと実態調査の検討チームを結成。最終的に計画相談員向けの「入所施設利用者に関するアンケート」を作成、県内の指定特定相談支援事業所向けに送付・実施しました。
- ・長期入院患者について地域の支援者の見立てを反映できるよう、「地域移行評価シート」を開発しました。これは患者ひとりひとりのストレングスを可視化し、評価基準を明確に設定した誰でも使えるものとなっています。

## ●次年度の活動（新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら実施）

- ・地域移行支援の実践と進捗管理を行います。
- ・精神科病院の訪問を再開し、長期入院患者との面会を通して地域移行支援の導入につなげていきます。従来のマトリクス整理に加え、独自開発の地域移行評価シートを用いて患者のストレングスをアセスメントします。
- ・高齢精神障害者の事例検討の実施、及び障害、介護、医療、行政の連携強化やスキルアップを図ります
- ・ピアサポーターとの連携や協働、育成について協議します
- ・入所施設利用者に関するアンケートの結果を分析し、地域移行実践の対象を広げていきます。

## ●部会員

部会長：有野（蒼溪会）

部会員：野中・塩澤（峡西病院）、高橋・斉藤（県立北病院）

梶山（韮崎東ヶ丘病院）

渡邊・木村（カマラド）、久保・藏條（きづな）

小野（クローバー）、小池（地域包括支援センター）

田中・谷脇（11月より）（中北保健所）

事務局：田中・佐野（障がい福祉課自立支援担当）

遠藤・鹿山（障害者相談支援センター）

\*氏名に下線がある方は、資料のみ配布でご参加いただきました。



# 令和2年度 南アルプス市障害者自立支援協議会ダイジェスト

## 専門部会

-地域の福祉課題を解決する-

# 子ども部会

### ●子ども部会について

- ・子ども部会は、子どもの発達に合わせた対応の課題（医療的ケア含む）に対し、福祉サービス利用前からの状況を客観的に検証し、適正な対応ができることをめざし、関係機関との意見交換を重ねてきました。

### ●この1年の動きや出来事:

- ・今年度は、実情把握（会議・施設見学）、支援に必要な視点の学習のため研修実施をしました。
- ・把握内容：多くの子ども達の居場所が子どもの意向が反映されず、限局化されていることや各関係機関の関わり在意図がお互いに、すり合わせられていないケースも目立つ実情。
- ・課題と対応：サービスと決め込む前の情報の整理ができるよう、子どもに関わる機関が適切な情報を入手すること・具体的に各関係機関の役割を知って関わり在意図を共有することが必要ということが見えてきました。そのため、役割理解に向け、計画相談連絡会で教育の仕組みの説明や小中学校の特別支援コーディネーターの学習会や発達をみる小児科医師とのやり取りで、福祉の現状を取り上げて情報提供をしました。  
また、子どもに関わる支援者の視点を広げることもさることながら、子どもの居場所となりえる緩やかな見守りも含めた地域の支えを求められるよう、視点の啓発として、研修会を実施しました。

### ●次年度の活動

今年度の収集できた題材から、今後も、教育や医療に向けて福祉の理解を周知する機会を持つことや、学童も含むが、それだけでない子育て支援の検討も含め、具体的対応策の検討と取り組みに向けたと考えています。

医療的ケアに関しても成人期を見通して地域でできることの検討のため、まずは実態把握を実施予定。

### ●部会員

部会長：小林ゆかり（小笠原小学校特別支援コーディネーター）

部会員：小倉（生活支援センタークローバー）

事務局：佐野（障がい福祉課長）

秋山（放課後等デイサービスあそぼ）

小林（障がい福祉課自立支援担当）

渡邊（ひかりの家学園）

窪川（障害者相談支援センター）

田邊（福祉総合相談課）

小田嶋（障がい福祉課自立支援担当）

浅川（健康増進課）

（障害者相談支援センター）

小林（子育て支援課）

雨宮（あけぼの医療福祉センター地域支援課長）

## 令和2年度 南アルプス市障害者自立支援協議会ダイジェスト

### 専門部会

-南アルプス市第6期障害福祉計画・第2期障害児福祉計画-

# 障害福祉計画部会

## ●障害福祉計画部会について

第6期障害福祉計画・第2期障害児福祉計画は、本市における障害福祉サービス等種類ごとの必要な見込み、及び見込量を確保するための方策、地域支援事業の実施に関する事項を定めるものです。本部会において、障害福祉サービス事業者等の部会メンバーにより調査研究し、国の指針に伴う目標値から実際の本市の現場状況を踏まえ本市独自の計画を策定しました。

## ●この1年の動きや出来事:

### ①年5回の部会開催

- ・部会の趣旨、活動目標、活動スケジュール等の確認。
- ・国の指針を元に事務局より提示しました成果目標と活動指標について協議をしました。
- ・サービスの利用量を見込む際の利用実態の分析やニーズ、課題について意見出しを行い本市独自の目標値を設定しました。

### ②障害者施策推進協議会へ説明、意見等いただきながら素案について協議

### ③パブリックコメントの実施

実施期間：令和3年1月21日～令和3年2月10日 結果：11件（2人） 意見の反映は無

### ④議員説明会

実施日：令和3年1月17日 質問件数：4件

## ●次年度の活動

部会は、本計画が策定されたことにより今年度で活動を終了します。今後この計画の進捗状況については、障害者施策推進協議会において確認・検証等を行っていきます。

## ●部会員

部会長：小林 小百合（社会福祉法人 青い樹の会 マハロ）

部会員：前嶋 花織（株式会社やさしい手甲府 南アルプス営業所）

和泉 和仁（特定医療法人南山会 アルプスファーム）

時田 崇史（社会福祉法人 蒼溪会 相談支援センターカマラド）

河野 慎治（福祉総合相談課 地域福祉担当）

窪川 知也（南アルプス市障害者相談支援センター）

鹿山 雄志（南アルプス市障害者相談支援センター）

オブザーバー：飯室 正明（山梨県相談支援体制整備事業 中北圏域マネージャー）

事務局：佐野 秀仁（障がい福祉課長）

小林 智奈美（障がい福祉課 自立支援担当）

田中 豪（障がい福祉課 自立支援担当）



## 令和2年度 南アルプス市障害者自立支援協議会ダイジェスト

### 連絡会

-同種の事業所間による情報共有、ネットワークづくり-

# 計画相談事業所連絡会

#### ●計画相談事業所連絡会について

- ・ 計画相談支援・障害児相談支援の円滑な提供に向けて、市内の指定特定相談支援事業所の相談支援専門員が集まり、月1回開催している連絡会です。
- ・ 情報交換や意見交換を通じて相談支援専門員が抱え込まず、困り感や解決したいことを共有しお互いに支え合っていく場です。

#### ●この1年の動きや出来事

- ・ 今年度は障害者相談支援センターが主体となり連絡会の企画を行いました。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の拡大防止の為、各事業所1名までの参加制限を行いました。
- ・ 障害者相談支援センターが行っている相談支援事業所巡回訪問にて多機関の役割や、どのような場面で連携をしたら良いのか分からないと言った意見が多く挙げられたので、今年度は社会福祉協議会や障害者就業・生活支援センターなど他機関の支援者をお呼びし、お互いの役割を再確認する機会を設けました。また、南アルプス市の政策の土台となる地域福祉計画の内容も確認を行いました。

#### ●次年度の活動

- ・ 障害者相談支援センターと事業所とが共同で運営をしていく形を来年度も継続していきます。
- ・ 今年度は障害者相談支援センターの企画が中心でしたが、次年度は一人ひとりが主体となって作り上げていくという観点から、それぞれの相談支援事業所がグループになり企画をしていただく月を設けます。また、地域の課題についても活発に取り上げ、毎月の事例検討会と連動した取り組みを行います。

#### ●参加事業所

きづな、★ケアセンターまた明日、生活支援センタークローバー、相談支援センターカマラド、  
ともろうなんでも相談室、★ドリームハート、HAPPY、ひなたぼっこ、★ぼけっとはうす、レーベン  
★：コアメンバーとして今年度の連絡会の運営にご協力頂きました。

# 障害福祉サービス事業所 合同説明会「みっけ！」

## ●障害福祉サービス事業所合同説明会について

- ・障害福祉サービス合同説明会「みっけ！」（以下「みっけ！」）を通し、障害福祉サービス（以下福祉サービス）の利用を考えている方や保護者が、支援関係者やサービス提供者から直接情報を収集できる機会を作りました。説明会が利用者の自己選択・自己決定・自己実現の機会となるようにしていきます。

## ●この1年の動きや出来事

- ・新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、前年度までのイベント形式では実施せず、事業所の情報を掲載した冊子を作成しました。
- ・就労事業所が主体となって次年度以降「みっけ」を継続的に開催（情報収集の機会の担保）できるように、意見や情報交換のできる場づくりを提案しました。（就労事業所共有会議）

## ●次年度の活動

- ・就労事業所共有会議が主となり、前年度までの実行委員も協力しながらコロナ禍の情勢にあった情報収集・提供の形を考えていきます。

## ●メンバー

会長；小倉（生活支援センター クローバー）

会員；穴水・中沢（ケアセンターまた明日）

望月（梨の実寮）

東條（社会福祉協議会）

田住・中島（わかば支援学校）

事務局；齋藤（障がい福祉課自立支援担当）

窪川（障害者相談支援センター）

清水（たいよう）

深澤（みらいコンパニー）

高橋（あけぼの支援学校）

佐野（障がい福祉課自立支援担当）

遠藤（障害者相談支援センター）

# 地域生活支援拠点運営会議 報告

## 1. 令和2年度地域生活支援拠点運営会議活動報告

令和2年7月14日（火） 午後3:30 内容 昨年度までの振り返り、拠点4会議の在り方他  
令和2年9月30日（水） 午後3:00 内容 代表選出、登録調整会議結果他  
令和3年1月20日（水） 午前10:00 内容 登録調整会議結果、拠点事業者会議他

## 2. 事業所登録状況

担う機能	事業所数	備考
1. 相談	3	3法人
2. 緊急時の受入・対応	6	
3. 体験の機会・対応	14	
4. 専門的人材の確保・養成	9	
5. 地域の体制づくり	11	

## 3. 当事者登録状況

R2, 3月時点 2人

※計画相談員からサポートシート提出により、個別調整会議を経て登録に至る。

## 4. 運営会議内で協議した案件等

- ① 運営会議のメンバー構成、代表者の選出
- ② 拠点の4つの会議の在り方について
- ③ 登録事業所数の増加についてどのような取組を行うか。
- ④ サポートシートの書き方、運用の仕方など
- ⑤ 当事者の登録に対する聞き取り調査について 計画相談員への聞き取り
- ⑥ 利用者登録に伴う課題
- ⑦ 利用者登録に関する手続きの一連の流れについて、負担や課題となっている点
- ⑧ 令和3年度障害福祉サービス報酬改定について
- ⑨ 拠点の研修会を令和3年度に実施していく
- ⑩ 拠点事業者会議の運営について

## 5. 来年度の取り組み予定について

- A. 拠点に係る研修
- B. 登録事業者増加に向けた説明会など
- C. 障がい福祉サービスにつながない市民への呼びかけについて、民生委員、CSW、保健師等との連携を図る。
- D. 登録いただいていない事業所への働きかけ

## 令和2年度南アルプス市障害者自立支援協議会 委員名簿

NO	区分（要綱第3条第2項）	所	属	氏名	備考
1	(1) 障害者及びその家族			玉置 祐司	
2	〃			岩出 広子	
3	(2) 障害者福祉に従事する者 障害者施策推進協議会会長	社会福祉法人山梨県手をつなぐ親の会	県立育精福祉センター成人寮	塩澤 一夫	
4	〃 計画相談支援連絡会会長	また明日（株）	ケアセンターまた明日	秋山 雅美	
5	〃	社会福祉法人青い樹の会	マハロ	小林 小百合	
6	〃	社会福祉法人南アルプス市社会福祉協議会	南アルプス市社会福祉協議会	齋藤 雅也	
7	(3) 相談支援に従事する者	社会福祉法人山梨県手をつなぐ親の会	生活支援センタークローバー	田中 正志	
8	〃 地域移行部会長	社会福祉法人蒼溪会	社会福祉法人蒼溪会	有野 哲章	
9	〃 権利擁護部会長	社会福祉法人青い樹の会	レーベン	菊原 一恵	
10	〃 中北圏域マネージャー	社会福祉法人三井福社会	アンダンテ	飯室 正明	
11	〃	南アルプス市福祉総合相談課	地域福祉担当	清水 健太郎	
12	(4) 保健医療に従事する者 障害者施策推進協議会副会長	特定医療法人南山会	峡西病院	上田 譲二	
13	(5) 教育又は療育に従事する者	南アルプス市教育委員会学校教育課	指導監	笹本 信仁	
14	(6) 就労支援に従事する者	社会福祉法人蒼溪会	相談支援センターカマラド	鴨作 光昭	
15	(7) 地域福祉に従事する者	南アルプス市地域包括支援センター	介護予防担当	塚原 麻理	
16	〃	南アルプス市福祉総合相談課	地域福祉担当	河野 慎治	
-	(8) 前各号に掲げるもののほか、市長が必要と認める者			-	

## 令和2年度南アルプス市障害者自立支援協議会 運営会議メンバー

NO	区分（要綱第9条）	所	属	氏名	備考
1	会長	社会福祉法人蒼溪会	相談支援センターカマラド	鴨作 光昭	
2	副会長	社会福祉法人山梨県手をつなぐ親の会	生活支援センタークローバー	田中 正志	
3	会長が指名する者 事務局	南アルプス市障がい福祉課	課長	佐野 秀仁	
4	〃 〃	〃	自立支援担当	小林 智奈美	
5	〃 〃	〃	〃	小笠原 美紀	
6	〃 〃	南アルプス市障害者相談支援センター	（ぼけっとはうす）	窪川 知也	
7	〃 〃	〃	（カマラド）	鹿山 雄志	
8	〃 〃	〃	（クローバー）	遠藤 久美子	
9	〃 〃	〃		小田嶋 悦子	